

第7章 課題と今後の対応方針

第7章 課題と今後の対応方針

- 河川整備について、従来型から今後どのように転換すべきか

「河川を拘束、制御する」⇒「河川に生かされる」

- ・ できるだけ自然に近い状態での河川の水量を確保しつつ、水を利用
- ・ 渇水による壊滅的な被害の防止
- ・ 既存施設の有効活用を図ったうえで、必要最小限の新規水資源開発
- ・ 環境に配慮して河川の水量を確保

第1節 節水

1. 新規水需要対策における需要減少対策(節水)の位置づけ
2. 市民の節水意識の向上
3. 水利用の合理化

1. 新規水需要対策における需要減少対策(節水)の位置づけ

- 市民の節水活動、企業の水利用の合理化を前提
 - ・ 水道事業者は、安定的に水を供給しなければならない
 - ・ 市民の節水活動による水需要の減少を計画に見込めるほどの的確な予測は困難である

このため、



- 新規水需要対策は、水道事業者が必要とする水量
- 節水は、渇水時の対応・利水安全度の向上

2. 市民の節水意識の向上

- 水の重要性、節水意識の啓発活動の推進
- 節水機器の開発

※ 日頃から節水が定着すると、非常時(壊滅的な渇水時)の
余裕・対応能力がなくなるとの指摘もある

3. 水利用の合理化

- 漏水の防止・回収率の向上等の促進、浪費的な使用の抑制による節水
- 生活排水・産業排水等の再生利用のための技術開発・利用等の促進

第2節 新規水需要対策

1. 新規水需要対策の基本方針
2. 水源転用の考え方
3. 水源転用の一定の考え方
4. 新規水需要対策

1. 新規水需要対策の基本方針

- 新規水需要対策は、水道事業者の要望に基づき実施
- 既存の水源の有効活用
 - 必要とされなくなった水源は、新規水需要対策に活用することを想定
- 不安定な水源は解消
- 必要最小限の新規水資源開発
 - 今後の水需要は、水道事業者を確認中